

■ ご挨拶 理事再任のご挨拶



日本風力発電協会 理事 庄田 邦彦
エコ・パワー株式会社 取締役

はじめに

昨年引き続き理事を務めさせていただくことになりました庄田 邦彦（しょうだ くにひこ）です。

1984年に大協石油（当時、現コスモ石油株式会社）に入社して以来化石燃料の代表格である石油ビジネスに携わっていましたが、2012年に社内で風力を含む電力ビジネスに関わり、昨年6月からはエコ・パワー社にて風力発電事業二年目の夏を迎えたところです。

エコ・パワー社員として感じたこと

昨年2014年度は、11月に和歌山県（広川・日高川WF、20MW）、2月に福島県（会津若松WF、16MW）で二つのWFを立ち上げることができました。

風力発電事業者の一人として発電所が立地する地元で執り行われる竣工式に出席して肌で感じたのが、いかに風力発電事業が地元関係者の熱い支持と期待を背負っているかということです。

地権者の方々、市町村役場の方々、地元選出国會議員、県会・市會議員の方々、町内会の方々等々、式典に参列された方々が夫々に『今日の日を迎えるに当たり、いかに自分がこの事業の良き理解者であり利害関係者との調整に尽力したか』について熱く語られる様子を目の当たりにし、風力発電事業が持つ地域密着性、地元との深い一体感というものを強烈に実感しないではいられませんでした。

（勿論、発電所開所を祝う式典ですから、お招きする方々に反対派の方はまずいらっしゃいませんので、今申し上げた『諸人挙りて』の印象にバイアスが掛かっている点は差し引かなければなりません。）

こうした地元との強固な一体感それ自体は、風力発電業界として他の再生可能エネルギーのみならず、全電源に対して誇るべき優位性に違いありませんが、他方でその誇るべき特質は、

風力発電事業が事業実現にたどり着くまでに膨大な時間と労力を費やしてきたことで獲得した所産でもあるわけです。

風力発電業界が長年かけて築き上げてきたこの優位性を保持しながら、『いかに合理的に事業化の期間短縮を図っていくか』は業界として是非とも取り組まなければならない喫緊の課題であると認識しています。

おわりに

エコ・パワー社では、新規WFを立ち上げる一方で、早くから国内で風力発電事業を手掛けてきたこともあり、まもなく運転開始20年を迎える風車も出始めます。

これらを含め、業界が抱える課題ひとつひとつに丁寧に取り組み、業界の持続的成長を実現すべく協会の一員として今年一年活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。

